

平成 23 年度 文部科学省「博士課程教育リーディングプログラム」

放射線災害復興を推進する フェニックスリーダー 育成プログラム

*Phoenix Leader Education Program (Hiroshima Initiative)
for Renaissance from Radiation Disaster*

平成 27 年度 外部評価報告書



広島大学
—Hiroshima University—

目 次

I 総 括

1 特に優れた点として次のことがあげられる。	1 ページ
2 主な改善を要する点として次のことがあげられる。	3 ページ
3 「1」及び「2」のほか、さらなる向上が期待される点として次のことがあげられる。	4 ページ

II 基準ごとの評価

基準1 目的

観点1 本プログラムの目的が、文部科学省による「博士課程教育リーディングプログラム」の目的である「俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー」の育成に合致したものであるか。	5 ページ
--	-------

基準2 実施体制

観点2-① プログラムにおける指導・支援体制が、プログラムの目的を達成するために、適切なものとなっているか。	7 ページ
観点2-② プログラムにおける企画・運営・連携体制が、プログラムの目的を達成するために、適切なものとなっているか。	7 ページ
基準2 実施体制 総合評価	8 ページ

基準3 担当者及び教育支援者

観点3-① プログラムにおける教員組織編成の方針が確立され、教育研究に係る責任の所在が明確になっているか。	10 ページ
観点3-② プログラムにおいて学生の指導を担当する教員は、「放射線災害の複合的な被害からの復興を横断的かつ統合的にマネジメントする「フェニックスリーダー」を育成する」というプログラムの目的に対して適切か。	10 ページ
基準3 担当者及び教育支援者 総合評価	11 ページ

基準4 学生の受け入れ状況

観点4-① 教育の目標に沿って求める学生像及び入学者選抜の基本方針などの入学者受入方針が明確に定められ公表、周知されているか。	13 ページ
観点4-② 入学者受入方針に沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実質的に機能しているか。	13 ページ
観点4-③ 入学者受入方針に沿った学生の受け入れが実際に行われているかどうかを検証するための取り組みが行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立っているか。	14 ページ
基準4 学生の受け入れ状況 総合評価	14 ページ

基準 5 教育内容及び方法

観点 5-① 教育の目的や授与される学位に照らして、授業科目が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されており、授業科目の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものとなっているか。	16 点
観点 5-② 分野横断型の指導により多様な背景を持つ学生を学位授与へと導くプロセスの管理及び透明化の手段を備えているか。	16 点
観点 5-③ 高度な研究及び実践に豊富に接する中で魅力ある教育を実践し得るように教育機能の充実が図られているか。	17 点
観点 5-④ 国際的な課題解決に向けて活躍する人材を育成するために、国際的なコミュニケーション能力や交渉力を高めるためのさらなる工夫と努力がなされているか。	17 点
観点 5-⑤ 教育課程の編成の趣旨に沿って適切なシラバスが作成され、活用されているか。	18 点
観点 5-⑥ 自主学习への配慮、専門外の他分野に関する科目を履修する学生への配慮等が組織的に行われているか。	18 点
観点 5-⑦ 遠隔地の社会人学生等への授業を行う際に、印刷教材等による授業（添削等による指導を含む。）、放送授業、面接授業（スクーリングを含む。）、若しくはメディアを利用して行う授業の実施方法が整備され、適切な指導が行われているか。	19 点
基準 5 教育内容及び方法 総合評価	19 点

基準 6 教育の成果

観点 6-① 学生が身につける学力、資質・能力や養成しようとする人材像等に照らし合わせて、その達成状況を検証・評価するための適切な取り組みが行われているか。	22 点
観点 6-② アンケート等、学生からの意見聴取の結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。	22 点
基準 6 教育の成果 総合評価	23 点

基準 7 学生支援等

観点 7-① 優秀な学生同士が切磋琢磨し刺激しあう環境が構築できているか。	25 点
観点 7-② 学業及び研究に専念できる、生活支援がなされているか。	25 点
観点 7-③ 学生が主体的に独創的な研究を計画・実践できる工夫がなされているか。	26 点
基準 7 学生支援等 総合評価	26 点

基準 8 施設・設備

観点 8 プログラムにおける教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設・設備が整備されているか。	28 点
---	------

基準 9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

観点 9 プログラムにおける評価体制が、プログラムの実施状況を評価するために、適切なものとなっているか。	29 ページ
--	--------

III 評価結果集計表 30 ページ

IV 外部評価で指摘された課題 31 ページ

V 平成 27 年度フェニックスリーダー育成プログラム外部評価実施要領 . . . 34 ページ

I 総括

※個人情報保護及び公正な評価のため、各外部評価委員は匿名の上、記号で表記した。

1 特に優れた点として次のことがあげられる。

委員 A: 評価委員会、学生へのアンケート調査などで指摘された事項について真剣に取り組み、改善を図っていることは大いに評価できる。

学生の学習のレベルを評価する基準を明らかにし、学習成果を学生及び指導教官が常時把握しながら指導に反映させる仕組みを作成したことは、大いに評価できる。

ティーチングハンドブックの改善は良くなされた。

委員 B: 新しい難しい大学院のプログラムが、目的に沿ってここまで確立されてきたことに敬意を表します。

委員 C: 放射線災害時に適切な判断と行動ができリーダーとしての役割を果たす人材を育成するという明確な目的に対して、学生の受け入れから教育内容、支援に至るまで過不足なく完成度が極めて高いプログラムが構築されている。特筆すべきことは、国際的にも類をみないユニークなプログラムであり、日本発として世界に誇ることができる教育システムである。

委員 D: 学生の多様な専門分野や、幅広い学問領域を横断的に融合し、「放射線災害復興学」として新たに整備された教育プログラムの完成度は高く、その目的達成のために、多方面の学内および学外の教員/職員が連携して活動している。国際シンポジウムへの参加、他大学との交流、福島などにおける現場研修も効果的に行われている。また、学位取得までのプロセスの明確化など、前年度挙げられた課題が確実に改良されている。

学生の語学力向上の取り組みや、学生に対する経済的支援等も充実し、海外の関係機関との連携などによる長期学外活動中もきめ細かいサポートがなされているなど、学習環境がよく整備されており、「グローバルでリーダーシップに富んだ学生の育成」が着実に進められている。

委員 E: このプログラムには特有の分野横断的な側面があるため、他に類を見ない存在であり続けている。

統合された評価改善プロセスに学生、教職員、メンター、及び外部評価委員が関わることで、行政的で学術的に強固な基盤を持っている。

日本学術振興会が組織する博士課程教育リーディングプログラム委員会が実施した中間評価において指摘された改善すべき点についても対応できている。

委員 F: 私が思うに、このプログラムの優れた側面の一つとして、プログラムに魅力を感じた学生の質の高さが挙げられる。このことは、学生の clinical use of micronuclei 開発といった重要な研究に関するプレゼンテーションの質の高さからも明らかである。そのような学生は間違いなく、最終的にフェニックスプログラムに地位や信頼性を与えてくれるだろう。

チェルノブイリや福島での事故から明らかになった、そのような災害のすべての側面

に総合的に対応することができる人材のニーズ前提として、このプログラムは、まさに世界的な科学的かつ心理社会的ニーズを満たすものである。私はこのようなプログラムは他にないと考える。

委員 G: 特にフィールドビジットを通じて、プログラムの実用的な専門知識を増やそうとする近年の取り組みは、紛れもなく、放射線災害やそれに続く結果に対する主要な課題について学生が理解を深めることにおいて、質的な飛躍を可能にしている。

この観点から、学生に放射線災害やそれに続く結果に対する主要な課題を認識させるために、フィールドビジットをプログラムのできる限り早い段階（学業を開始する前？）で計画してもよいのではないか。また、そうすることで、結果的に早い段階で、彼らの研究において、プログラムの一般的な精神、構造、最終目的を理解させることに繋がるだろう。

フィールドビジットにおいて、学生が自ら気づく課題に基づき、個々の研究トピックを選択するよう促すことで、近年のプログラムの疑う余地のない発展をさらに促進させることができるだろう。このことで、プログラムは放射線災害における実際の人的また社会的側面とのより実践的な繋がりを確立することができる。

委員 H: フェニックスリーダー育成プログラムはこれまで同様、優秀で、最近の日本学術振興会による評価 A は、プログラム責任者を初めとするプログラム担当者による懸命な努力と素晴らしいトレーニング成果の賜物である。

2017 年春に文部科学省からの補助金が終了するとき、その後のプログラムのあり方について早い段階で議論することが重要で、このプログラムのリーダーシップと今後の展開において大いに意味がある。

2 主な改善を要する点として次のことがあげられる。

<p>委員 A: 共通科目に放射線のリスクを扱う科目がないように見受けられるので、改善を要すると思う。</p>
<p>委員 B: 今後の問題として、努力していただきたいことを列記します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業生の就職先：国際的な魅力のあるところに就職できたという事実は今後の学生の応募に大きく影響すると思います。日本からでも、外国からでも同じです。 2. プログラムの継続：今から入学する学生、および今までに入学した学生にも、このプログラムが広島大学に継続して存在することが大きな意味を持ちます。文科省のサポートは一定期間後には中止と聞いていますが、その後の継続に全力を挙げた努力を期待しています。 3. 継続のためには国際機関との連携が必要であると思いますし、評価委員会中の発言でも国際機関が前向きであるとの印象をうけました。
<p>委員 C: プログラム開始当初に比べると、学生の受け入れ数が低下しているが、定常的な学生の確保は、このプログラムの成否に関わる重要な課題である。また、文部科学省からの補助金の配分が終了した後の継続については、他の資金の確保も重要であるが、大学の恒常的な大学院教育に組み込むことができるような教育内容の効率化も必要になってくる。</p>
<p>委員 D: 学生側の教育内容に関する意見、要望、評価等をフィードバックする仕組みは準備されているが、これらの調査結果を外部評価委員等に公表して、学生から提示された課題として明示し、改善した点などを明らかにする必要があると思われる。</p> <p>短期インターンシップ先を限定された機関や企業に偏らせず、事故・災害等に対する緊急対応機関や報道機関などにも広げ、緊急時の情報収集・整理・発信や、機能的な組織の運営に関する体験等も、リーダーシップの向上に有益と思われる。</p> <p>活躍の場を世界に広げるとともに、緊急時に災害発生地域において即応するためには、政治・宗教・言語・慣習・歴史的背景などに関する知識も必要と思われる。</p>
<p>委員 E: 日本や海外の医師をプログラム学生としてより多く採用するために、セミナーやウェブカンファレンスを開催し、医療大学におけるプログラムのアウトリーチを強化すること。また、医学生を対象とした掲示板、ニュースレター、その他の通信媒体でこのプログラムを広報することを検討してもらいたい。</p>
<p>委員 F: メンターとの時間をもっと必要としている学生もいる。</p>
<p>委員 G: プログラムの運営構造とカリキュラムマップは、成熟度の高いレベルに達している。</p> <p>しかし、以下の点においては、検証し確証を得るためにさらに努力する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 教職員が、放射線災害やその影響の複雑な状況に関連する課題に対応するための首尾一貫した理念とともに、その科学的・倫理的・社会的・政治的側面におけるの共有ビジョンを持つ。 - 上級学生も同様にこの共有ビジョンを持つ。 <p>この観点から、今後の国際シンポジウムは、このことを反映させられる機会になるだろう。（「基準 5 総合評価」参照）</p>
<p>委員 H: 放射線生物学や放射線物理学を含む放射線科学についての基本的な知識の中で、</p>

フェニックスリーダー育成プログラムの学生がどれほどの競争力を持っているか、評価者にとって明確でない。学生はプログラムを修了する時には、放射線に係るどのような災害でもその先頭に立ち、公に対して放射線リスクについて説明し、保障やカウンセリングを提供できることが期待される。

このように、学生は他の社会科学のカリキュラムよりも先に、放射線科学に関してしっかりと訓練を積まなければならない。このことは、とても重要なことである。

3 「1」及び「2」のほか、さらなる向上が期待される点として次のことがあげられる。

委員 C: プログラム修了生がどのように社会に貢献するかが大きく注目されるために、今後のキャリアパスを検討する活動が期待される。

委員 D: 本教育プログラムは、放射線災害の復興を担う優れた人材の育成が目的であるが、その過程で得られる研究成果(環境・インフラ等の復興状況、住民に対する支援等における問題点など)を専門誌だけではなく、広く一般にも公開して復興促進に寄与することにより、本プログラムの存在意義を高め、同時に学生の学習意欲を向上させる取組みも有益ではないかと思われる。

また、補助金終了後のプログラム継続に向けた方策を早期に決める必要がある。

委員 E: 学生に査読付き学術雑誌や学会誌で報告した成果を出版するように強く勧めること。

学术界、産業界、医療大学、研究機関、国際機関から国際的なメンターを加えることで、メンター制度を強化すること。

委員 G: 長期的な視点で考えると、フェニックスリーダー育成プログラムは、これまでのプログラムの学術的・実践的な活動を通して培われた経験を生かして、外国や国際機関と連携して放射線災害復興に関する国際トレーニングセンターを創設するという選択肢を検討する必要がある。

II 基準ごとの評価

- ※ 評価結果の評点については、各委員の評価選択のうち「満たしている」を4点、「概ね満たしている」を3点、「部分的に改善の必要がある」を2点、「多大な改善の必要がある」を1点として算出した。
- ※ 平均評点 0～1.5 点未満を「多大な改善の必要がある」、1.5～2.5 点未満を「部分的に改善の必要がある」、2.5～3.5 点未満を「概ね満たしている」、3.5 点以上を「満たしている」として、□に✓を記入して最終的な評価を示した。

基準 1 目的

観点 1 本プログラムの目的が、文部科学省による「博士課程教育リーディングプログラム」の目的である「俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー」の育成に合致したものであるか。

【評価結果】 適した評価を一つ選び、□に✓を記入してください。

- 基準 1 を満たしている
- 基準 1 を概ね満たしている
- 基準 1 について部分的に改善の必要がある
- 基準 1 について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
評点	4	4	4	4	4	4	4	4	4

【コメント】

委員 A: 日本学術振興会博士課程教育リーディングプログラム委員会により「計画通りの取り組みであり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる」(区分 A) という評価結果を得たことに対して敬意を表すものです。

委員 B: 初年度から一貫した基準に従って毎年改善されている。

委員 D: 本プログラムは、多分野の学問領域を横断・融合させたユニークなプログラムで、災害発生場所等の現地における活動も重視した実践的なものとなっています。また、学生の自主性と積極性の醸成にも気を配られており、「俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー」の育成の趣旨に則したプログラムであると思われます。

委員 E: このプログラムは、学生が問題解決に向けて学際的な思考を培うことができるように組まれている。フィールドワークやインターンシッププログラムが、このプログラムに大きな価値を与えている。

委員 G: プログラムは、現在、例えば、放射線災害の場において状況分析と適切な判断ができ、また、災害に伴う生活環境復興の過程を効果的に支援できるリーダーを育成する等、「放射線災害復興学」という明確なタイトルの下、正しく運営されており、また文部科学省の博士課程教育リーディングプログラムが掲げる要件を満たすように適切に設計されている。

委員 H: フェニックスリーダー育成プログラムの目的はこれまでと同様、明確で的が絞られている。

直近の日本学術振興会から A 評価を受けたことで、このプログラムが目的に向かってきちんと運営されているということが再認識することができる。

基準 2 実施体制

観点 2-① プログラムにおける指導・支援体制が、プログラムの目的を達成するために、適切なものとなっているか。

【評価結果】 適した評価を一つ選び、□に✓を記入してください。

- 観点 2-①を満たしている
- 観点 2-①を概ね満たしている
- 観点 2-①について部分的に改善の必要がある
- 観点 2-①について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
評点	4	4	4	4	4	3	4	4	3.88

観点 2-② プログラムにおける企画・運営・連携体制が、プログラムの目的を達成するために、適切なものとなっているか。

【評価結果】 適した評価を一つ選び、□に✓を記入してください。

- 観点 2-②を満たしている
- 観点 2-②を概ね満たしている
- 観点 2-②について部分的に改善の必要がある
- 観点 2-②について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
評点	3	3	3	3	3	3	4	4	3.25

基準 2 実施体制 総合評価

【評価結果】 適した評価を一つ選び、□に✓を記入してください。

- 基準 2 を満たしている
- 基準 2 を概ね満たしている
- 基準 2 について部分的に改善の必要がある
- 基準 2 について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
評点	4	4	3	4	3	4	4	4	3.75

【コメント】

<p>委員A：評価できる点を以下に示した。</p> <p>課題 1 の社会科学分野の教員の一層の積極的参加については、社会学研究科マネジメント専攻教授が参加するという改善がなされた。また、教員メンター、学生相談（職員）メンター、先輩メンター（学生）が学習活動を支えていて、月例の学生・メンターランチタイムミーティングが開始され実施体制の充実が図られた。</p> <p>課題 2 のプログラムの継続性については、大学院リーディングプログラム機構で検討が続いていて、困難な問題であるが努力が続けられている。</p>
<p>委員 B：社会科学の発表も一定のレベルに達している。</p> <p>指導者の協力体制も改善している。</p>
<p>委員 C：プログラムの継続性については、現在検討しているとのことであるが、この時期になるとその具体的な方策が示されることが必要である。</p>
<p>委員 D：昨年度の課題（プログラムの継続性）への対応について</p> <p>補助金終了後の本プログラムの継続性について、H27 年度中には、組織体制、カリキュラムの見直し、学生に対する経済的支援策等の見通しを明確化し、確実な実施をお願いします。</p>
<p>委員 E：このプログラムはティーチングハンドブック、メンター制度、e ラーニングポートフォリオ、キャリアポートフォリオマニュアル及び実施要領によりよく構成されている。</p> <p>プログラムの改善システムが存在し、それに学生のフィードバックが反映されている。プログラムに関する学生からの匿名の評価を収集する等、フィードバックシステムを強化してもらいたい。</p>
<p>委員 G：学術的・産業的・国際的機関との連携を含む、プログラムをサポートする総合的な運営構造は、現在、プログラムの要件を満たすために適切に構築されている。</p>
<p>委員 H：異分野横断型のこのプログラムは、計画的に運営されている。学生と事務室職員との定期的なランチョンミーティングが新たに導入され、よりリラックスできる環境で、より一層オープンな対話やフィードバックを受ける機会が与えられている。</p> <p>文部科学省からの財政支援が 2017 年春に終了した後のプログラムのあり方について、プログラム責任者及び担当者が主導して早期に議論することは、プログラムの強みになると考えられる。</p>

基準 3 担当者及び教育支援者

観点 3-① プログラムにおける教員組織編成の方針が確立され、教育研究に係る責任の所在が明確になっているか。

【評価結果】 適した評価を一つ選び、□に✓を記入してください。

- 観点 3-①を満たしている
- 観点 3-①を概ね満たしている
- 観点 3-①について部分的に改善の必要がある
- 観点 3-①について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
評点	4	4	4	4	4	3	4	4	3.88

観点 3-② プログラムにおいて学生の指導を担当する教員は、「放射線災害の複合的な被害からの復興を横断的かつ統合的にマネジメントする「フェニックスリーダー」を育成する」というプログラムの目的に対して適切か。

【評価結果】 適した評価を一つ選び、□に✓を記入してください。

- 観点 3-②を満たしている
- 観点 3-②を概ね満たしている
- 観点 3-②について部分的に改善の必要がある
- 観点 3-②について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
評点	3	4	4	4	3	3	3	4	3.50

基準 3 担当者及び教育支援者 総合評価

【評価結果】 適した評価を一つ選び、□に✓を記入してください。

- 基準 3 を満たしている
- 基準 3 を概ね満たしている
- 基準 3 について部分的に改善の必要がある
- 基準 3 について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
評点	4	4	4	4	3	4	3	4	3.75

【コメント】

委員 A: ティーチングハンドブックの改良により授業ごとの目標が一目でわかるカリキュラムマップが作成され学生の学習に必要な科目が分かりやすくなったことは評価できる。学生はカリキュラムマップを見てよく検討していると思うので、これで分かると思うが、これから入学しようとする受験生にとっては、放射線災害医療コース、放射能環境保全コース、放射能社会復興コースごとに、スタートアップ、アドバンス、専門科目について学ぶべき科目名と授業概要を示した表があると分かりやすいと思う。

放射線災害復興学」という学問分野はまだ確立されてなく、このプログラムによって徐々に整備されている段階だと思う。教育セミナーで活発な議論がなされていることは評価できる。このプログラムにより「放射線災害復興学」が確立することを期待する。

委員 B: 担当者および教育支援者に関して様々な努力がなされていることを評価できる。

委員 D: ティーチングハンドブックの改良は、教職員による議論等を通じて改善が図られています。プログラムの進化に合わせて、引き続き改良の取組みをお願いします。

委員 E: ティーチングハンドブックは学修目標が明確に示されており、学生の到達度が容易に評価できるようになっている。その実施についてフィードバックを受けることは、内容の簡素化や改善の方法を見出すのに適しているだろう。

委員 G: ティーチングハンドブックについては、プログラムの構造、目的、カリキュラムが明確に示されており、本当に良く改善されている。しかし、放射線災害やそれに続く結果への対応における特徴や主な課題に関する教職員の共有ビジョンについては解り易く示されていない。そのような共有ビジョンを持つことで、プログラム担当の教職員やその他外部の講師等が行う様々な講義に一貫性をもたらし、また、学生はプログラムの一般的な目的とその構造論理をより深く理解するだろう。

委員 H: 学生が放射線や放射線災害復興の専門家が加わることは、実際の現場で今後経験する可能性があることを体験的に学べるため、プログラムの強みになるだろう。

基準 4 学生の受け入れ状況

観点 4-① 教育の目標に沿って求める学生像及び入学者選抜の基本方針などの入学者受入方針が明確に定められ公表，周知されているか。

【評価結果】 適した評価を一つ選び，□に✓を記入してください。

- 観点 4-①を満たしている
- 観点 4-①を概ね満たしている
- 観点 4-①について部分的に改善の必要がある
- 観点 4-①について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
評点	4	4	4	4	4	4	3	4	3.88

観点 4-② 入学者受入方針に沿って適切な学生の受入方法が採用されており，実質的に機能しているか。

【評価結果】 適した評価を一つ選び，□に✓を記入してください。

- 観点 4-②を満たしている
- 観点 4-②を概ね満たしている
- 観点 4-②について部分的に改善の必要がある
- 観点 4-②について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
評点	4	4	4	4	4	4	4	4	4

観点 4-③ 入学者受入方針に沿った学生の受け入れが実際に行われているかどうかを検証するための取り組みが行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立っているか。

【評価結果】 適した評価を一つ選び、□に✓を記入してください。

- 観点 4-③を満たしている
- 観点 4-③を概ね満たしている
- 観点 4-③について部分的に改善の必要がある
- 観点 4-③について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
評点	3	4	3	4	4	4	4	4	3.75

基準 4 学生の受け入れ状況
総合評価

【評価結果】 適した評価を一つ選び、□に✓を記入してください。

- 基準 4 を満たしている
- 基準 4 を概ね満たしている
- 基準 4 について部分的に改善の必要がある
- 基準 4 について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
評点	4	4	3	4	4	4	3	4	3.75

【コメント】

委員 A: 放射線災害医療コースにおいて、国内で診断・治療に従事できる医師免許保持者の獲得が必要との判断に基づき推薦入試「放射線災害から命を護る医師枠」を新設したことは、博士課程教育リーディングプログラム委員会の中間評価にある「我が国の医学部出身の学生獲得が課題であり、社会人医師の受け入れなど今後一層の努力が必要である。」との指摘に應えるもので、評価できる。今後の成果に期待する。

委員 B: 今後の学生の受け入れについての懸念があるが、総合で述べる。

委員 C: 平成 26 年から 27 年にかけて受け入れ人数の減少がみられる。中でも、日本人の学部卒が 2 年連続して 0 である。入試の厳格化や海外での広報活動は評価できるが、日本の学部学生へどのようにアピールするののかについてもより積極的に検討されてもよいのでは。

委員 D: 海外の学生の選抜基準

外国人志願者の出願資格事前審査における提出書類に、「日本語能力検定等の成績証明書等」の項目がありますが、これは文科省の規定でしょうか。
(入学を希望する海外の学生にとって、これが障壁となることも考えられますので、不要ではないかと思われまます。)

委員 E: その多くはアジアからではあるが、多様な背景・国籍の学生が入学している。ヨーロッパやアフリカなどの他の地域からの学生を獲得するための募集活動は引き続き行っていくべきだ。IAEA や ICRP のような国際的な関係者は、プログラムのアウトリーチを強化する手助けになるだろう。

委員 F: 例えばアメリカの大学にパンフレットを送付するなど、プログラムについてもっと告知すればアメリカからの応募者が増えるだろう。

委員 G: 入学のためのチラシや募集要項に、本プログラムが「放射線災害復興に関する研究」等の学術的分野であることを明確に示した方が良いだろう。また、その学際的なアプローチや、学術講義と実践的な研究活動の組み合わせによる教育プログラムであることを強調する必要がある。現在の集要項等には、プログラムの行政的な仕組みについては必要以上に多く記載されているが、プログラムの目的や新規性については十分ではない。

委員 H: 報告書によると、「実験医学」に募集案内を掲載しても意味がなく、募集の告知は、例えば「Radiation Research」「International Journal of Radiation Biology」「International Journal of Radiation Oncology・Biology・Physics」などの放射線関連の雑誌に的を絞る方が良いだろう。さらに、オンライン広告は通常無料であり、「放射線影響学会」のホームページに載せることもできるだろう。

基準 5 教育内容及び方法

観点 5-① 教育の目的や授与される学位に照らして、授業科目が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されており、授業科目の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものとなっているか。

【評価結果】 適した評価を一つ選び、□に✓を記入してください。

- 観点 5-①を満たしている
- 観点 5-①を概ね満たしている
- 観点 5-①について部分的に改善の必要がある
- 観点 5-①について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
評点	2	4	3	4	4	2	4	4	3.38

観点 5-② 分野横断型の指導により多様な背景を持つ学生を学位授与へと導くプロセスの管理及び透明化の手段を備えているか。

【評価結果】 適した評価を一つ選び、□に✓を記入してください。

- 観点 5-②を満たしている
- 観点 5-②を概ね満たしている
- 観点 5-②について部分的に改善の必要がある
- 観点 5-②について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
評点	4	4	4	4	4	4	4	4	4

観点 5-③ 高度な研究及び実践に豊富に接する中で魅力ある教育を実践し得るように教育機能の充実が図られているか。

【評価結果】 適した評価を一つ選び、□に✓を記入してください。

- 観点 5-③を満たしている
- 観点 5-③を概ね満たしている
- 観点 5-③について部分的に改善の必要がある
- 観点 5-③について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
評点	4	4	4	4	4	4	4	4	4

観点 5-④ 国際的な課題解決に向けて活躍する人材を育成するために、国際的なコミュニケーション能力や交渉力を高めるためのさらなる工夫と努力がなされているか。

【評価結果】 適した評価を一つ選び、□に✓を記入してください。

- 観点 5-④を満たしている
- 観点 5-④を概ね満たしている
- 観点 5-④について部分的に改善の必要がある
- 観点 5-④について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
評点	4	4	4	4	4	3	4	4	3.88

観点 5-⑤ 教育課程の編成の趣旨に沿って適切なシラバスが作成され、活用されているか。

【評価結果】 適した評価を一つ選び、□に✓を記入してください。

- 観点 5-⑤を満たしている
- 観点 5-⑤を概ね満たしている
- 観点 5-⑤について部分的に改善の必要がある
- 観点 5-⑤について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
評点	4	4	4	4	4	3	4	4	3.88

観点 5-⑥ 自主学習への配慮、専門外の他分野に関する科目を履修する学生への配慮等が組織的に行われているか。

【評価結果】 適した評価を一つ選び、□に✓を記入してください。

- 観点 5-⑥を満たしている
- 観点 5-⑥を概ね満たしている
- 観点 5-⑥について部分的に改善の必要がある
- 観点 5-⑥について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
評点	4	4	4	4	3	3	4	4	3.75

観点 5-⑦ 遠隔地の社会人学生等への授業を行う際に、印刷教材等による授業（添削等による指導を含む。）、放送授業、面接授業（スクーリングを含む。）、若しくはメディアを利用して行う授業の実施方法が整備され、適切な指導が行われているか。

【評価結果】適した評価を一つ選び、□に✓を記入してください。

- 観点 5-⑦を満たしている
- 観点 5-⑦を概ね満たしている
- 観点 5-⑦について部分的に改善の必要がある
- 観点 5-⑦について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
評点	4	4	4	4	3	3	4	4	3.75

基準 5 教育内容及び方法
総合評価

【評価結果】適した評価を一つ選び、□に✓を記入してください。

- 基準 5 を満たしている
- 基準 5 を概ね満たしている
- 基準 5 について部分的に改善の必要がある
- 基準 5 について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
評点	2	4	3	4	3	4	4	4	3.50

【コメント】

委員 A：評価できること

- ・スタートアップ共通科目「広島復興史」で福島での現地視察をショートフィールドビジットに組み込み、事前研修の充実を図ることにより、学生の主体的な学習に寄与したこと。
- ・国際機関でのインターンシップ、国内での新たな企業でのインターンシップの実現。
- ・ティーチングハンドブックの改修および Learning ePortfolio の改修により学位授与へ導くプロセスが学習者に分かりやすくなったこと。
- ・国外における高度な実践的訓練の場の提供や産学官の有識者の講義と懇談の機会の提供、国内外の機関におけるグローバルフィールドビジットの提供により、教育機能の充実が図られたこと。
- ・英語教育の充実、社会科学分野の教員の参加、遠隔地における授業や試験に活用できる設備の充実を図ったこと。

改善を要すると思うこと

ティーチングハンドブックが改善され、各科目の概要が記載されている内容を見て（これまでも記載されていたのを見落とししたのかもしれませんが）共通科目に放射線のリスクに関する内容の記述がないことに気が付きました。放射線被ばくに伴うリスクは線量により大きく異なりますが、福島事故で大きな問題となっているのは低線量、低線量率被ばくに対するリスクです。これについて理解がないと、また自分なりの考えがないと、放射線量率の少し高いところへの帰還についての考えを求められて時に答えようがないと思っています。共通科目に含めることを希望します。（実際には、放射線のリスクの科目があれば観点 5－①と観点 5 の総合評価は基準を満たしているに変更してください。）

以下は参考です。

シニアの学生が得た知識をもとに学部学生の講義や演習の一部を担当するような試みが可能であれば試行することを検討されるとよいと思う。習うという姿勢の学習より教えるための学習のほうが、より深い理解につながると思うので。

シニアの学生がプロジェクトを作り、（現地のボランティアを含めて）ボランティアの参加を得てプロジェクトを完成させるという試みに対して、その評価をしたうえで必要な援助をする、というような可能性があるといいと思う。リーダーとして何が必要かを会得する上でよい経験になると思う。

委員 B：非常に努力されていることがわかる。

委員 C：インターンシップは本プログラムの特徴であり、受け入れ先の拡大が課題となっている。IAEA やマツダが主な受け入れ先であることは理解できるが、学生の多様性を促進する観点からは、まだ拡大方針の検討が不十分である印象がある。社会の多様性がインターンシップにも反映されることを期待する。

委員 D：インターンシップ先の拡大について

災害発生直後の緊急対応時においては、正確な情報の収集・発信が、現場における初

動対応の成否を左右します。また長期に亘る復興作業時には、避難者の孤独死に代表されるように、きめ細かい状況の把握と対応が求められます。そういった意味で、緊急・救急機関や、報道関係機関、気象情報機関などへのインターンシップにより、情報の収集・整理・発信方法、組織の構築・機能的な運営方法などの研修を検討してはいかがでしょうか。

また、復興現場の課題等に関する調査・研究結果を、専門誌のみではなく、広く一般に公開することにより復興促進に寄与する活動も、学生の学習意欲向上等に有益だと思われれます。被災地の意見をプログラムに反映する活動も必要ではないでしょうか。

講義プログラムの中に、政治・宗教に関するものは必要ないでしょうか。

グローバルに活動を行う場合、その地域の政治、宗教、慣習、言語、歴史的背景によってその活動が制限されることがあると思われれます。多国籍のメンバーで活動する場合や、緊急対応時および長期に亘る復興を支援する場合も、住民との円滑な情報共有等により上記知識が必要になると思われれます。

委員 E: 学生のリーダーシップ力を育成するための既存のメカニズムの効力が明確ではない。リーダーシップに必要な力は学修することができるものだと信じているが、一方で、世界で活躍するリーダーになるための、次世代のリーダーシップに必要な力の習得について学ぶことに高いモチベーションと関心を持つっている学生を受け入れることも重要であろう。

志願者には、志願票にモチベーションレターを添付させるようにしてはどうか。そのためには、志願者のモチベーションのレベルを評価するシンプルな基準を設ける必要があるだろう。

委員 G: 基準 3 の総合評価で述べたように、まだ改善の余地はあるものの、ティーチングハンドブックはプログラム実施のために大幅に改善されている。グローバルフィールドビジットの発展は、「放射線災害学」の学際的な性質を学生に理解させ、また、講義で学んだ学術的な内容を吸収させるために欠かせない手段である。

プログラム開始当初から培われた経験から、プログラム担当の教職員及び上級生からの適切な意見を結集させ、さらに、放射線災害やその後長期に渡り続く結果への対応において経験豊かな外部の専門家も巻き込み、課せられた問題をより深く理解していただくためのプログラムの貢献を反映していく時期である。次回の国際シンポジウムはもちろん、例えば、内部のワークショップ等他の活動もこのことを反映させる良い機会になるだろう。

委員 H: 報告書ではフェニックスリーダー育成プログラムに入学することがいかに競争的か明確ではない。例えば、志願者数や倍率はどうか、また、このプログラムが広島大学の大学院プログラムと比較してどのようなものなのか。

オクリッジ放射線緊急時支援センター/訓練施設のような放射線緊急事態に対応している研究機関が関わっていることは、根本的にプログラムの趣旨に強く関連しており、このような実践的な研修を学生の任意ではなく必修にするべきであろう。

学生にとって、自身の考えを磨き、簡潔に公に伝える良い機会になるため、研修プログラムで討論会を実施することを検討するべきである。

基準 6 教育の成果

観点 6-① 学生が身につける学力、資質・能力や養成しようとする人材像等に照らし合わせて、その達成状況を検証・評価するための適切な取り組みが行われているか。

【評価結果】 適した評価を一つ選び、□に✓を記入してください。

- 観点 6-①を満たしている
- 観点 6-①を概ね満たしている
- 観点 6-①について部分的に改善の必要がある
- 観点 6-①について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
評点	4	4	4	4	4	3	4	4	3.88

観点 6-② アンケート等、学生からの意見聴取の結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

【評価結果】 適した評価を一つ選び、□に✓を記入してください。

- 観点 6-②を満たしている
- 観点 6-②を概ね満たしている
- 観点 6-②について部分的に改善の必要がある
- 観点 6-②について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
評点	3	4	4	4	3	4	4	3	3.63

基準 6 教育の成果 総合評価

【評価結果】 適した評価を一つ選び、□に✓を記入してください。

- 基準 6 を満たしている
- 基準 6 を概ね満たしている
- 基準 6 について部分的に改善の必要がある
- 基準 6 について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
評点	3	4	4	4	3	4	4	4	3.75

【コメント】

委員 A: QE で筆記試験、面接試験により理解度および達成度を確認していること、カリキュラムマップ、ルーブリックの作成により学生に求める学習内容や達成度を分かりやすく示したことは評価できる。

アンケート調査からレクチャー、セミナー、ディスカッションで学生が満足している様子が分かるが、不満足あるいはやや不満足という回答を見ると、リーダーに必要な要件が十分伝わっていないと感じられる、重要なことなので、改善に向けた努力を続けることが必要である。

委員 B: 学生の発表を聞いて教育の効果を高く評価する。

委員 D: 学生の意見聴取結果について

プログラム全体の内容等に関する学生の意見聴取結果の公表と、これに基づいて実施された改善内容の公表も必要と思われます。

(セミナーに関する学生アンケート結果は自己評価報告書の資料集に掲載されているが、プログラム全体の内容に関するものは掲載されていない。)

委員 E: リトリート、異分野交流フォーラム、シンポジウム、フィールドワーク等を通して意見交換を促進していることについて、学生から高く評価されている。学生たちは、プログラム担当や講師たちが自分たちに目を向けていることについても感謝しているようだ。

委員 G: QE 口頭試問に放射線災害復興への対応における経験がある国際的な専門家を審査委員に加えることで、現在の審査過程がより効果的になるだろう。

このような試験は確実にプログラムの国際的な知名度を高め、国際的レベルの学生を取り込むことに有効だろう。また、潜在的な志願者にとっても魅力的な要素になるだろう。

委員 H: アンケートの結果から短期フィールドワークがどれほど有意義なものであったかについて、一定の評価ができるようにすべきである。プログラムの活動について、学生の満足度を 10 段階評価にする等、現在のような「良い」という指標ではあまいすぎて有益ではない。

基準 7 学生支援等

観点 7-① 優秀な学生同士が切磋琢磨し刺激しあう環境が構築できているか。

【評価結果】 適した評価を一つ選び、□に✓を記入してください。

- 観点 7-①を満たしている
- 観点 7-①を概ね満たしている
- 観点 7-①について部分的に改善の必要がある
- 観点 7-①について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
評点	4	4	4	4	4	3	4	4	3.88

観点 7-② 学業及び研究に専念できる、生活支援がなされているか。

【評価結果】 適した評価を一つ選び、□に✓を記入してください。

- 観点 7-②を満たしている
- 観点 7-②を概ね満たしている
- 観点 7-②について部分的に改善の必要がある
- 観点 7-②について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
評点	4	4	4	4	4	4	4	4	4

観点 7-③ 学生が主体的に独創的な研究を計画・実践できる工夫がなされているか。
--

【評価結果】 適した評価を一つ選び、□に✓を記入してください。

- 観点 7-③を満たしている
- 観点 7-③を概ね満たしている
- 観点 7-③について部分的に改善の必要がある
- 観点 7-③について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
評点	4	4	4	4	3	4	4	4	3.88

基準 7 学生支援等 総合評価

【評価結果】 適した評価を一つ選び、□に✓を記入してください。

- 基準 7 を満たしている
- 基準 7 を概ね満たしている
- 基準 7 について部分的に改善の必要がある
- 基準 7 について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
評点	4	4	4	4	4	3	4	4	3.88

【コメント】

委員 B: 今後の支援体制を懸念するが、あとで述べる。

委員 D: 昨年コメントした研究テーマの多様性について、改善が図られていると思います。引き続き、研究対象を他の甚大災害(豪雨, 台風, 竜巻等)などにも拡大し, 緊急対応や復興活動における特異点や共通点を調査・研究することにより, リーダーシップに対する資質の向上などに有益な効果を学生にもたらすと思われます。

委員 E: 充実した経済支援, メンター制度, eポートフォリオ, 学生のフィードバックを反映する制度, 意見交換ができる様々なフォーラムを含め, 学生の支援体制は類まれなるものである。

委員 H: 他の大学院教育プログラムと比較して, フェニックスリーダー育成プログラムの学生はしっかり支援されている。

基準 8 施設・設備

観点 8 プログラムにおける教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設・設備が整備されているか。

【評価結果】 適した評価を一つ選び、□に✓を記入してください。

- 基準 8 を満たしている
- 基準 8 を概ね満たしている
- 基準 8 について部分的に改善の必要がある
- 基準 8 について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
評点	4	4	4	4	4	4	4	4	4

【コメント】

委員 E: ヒロシマ・フェニックストレーニングセンターで利用できる機器一覧には放射線のモニタリングや計測、除染に必要な主要な機器が含まれている。

学生も放射線モニタリングを行ういくつかの機器の検証テストを実施する作業に参加できるようにすると良い。

基準 9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

観点 9 プログラムにおける評価体制が、プログラムの実施状況を評価するために、適切なものとなっているか。

【評価結果】 適した評価を一つ選び、□に✓を記入してください。

- 基準 9 を満たしている
- 基準 9 を概ね満たしている
- 基準 9 について部分的に改善の必要がある
- 基準 9 について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
評点	4	4	4	4	4	3	4	4	3.88

【コメント】

委員 B: 評価委員会に対する説明、学生の発表の供覧は良いシステムである。

委員 D: 教育内容全体に関する学生側の評価

教育内容全体に関する学生側の意見、希望、評価と、これに基づいて実施した改善内容等を外部評価委員会資料(自己評価報告書資料集)に掲載いただきたいと思ひます。

委員 E: フィードバックと評価の制度がきちんと整備されている。

委員 F: 全体的に広島大学は大きくて非常に重要な課題に取り組んできている。

また、フェニックスリーダープログラムは創設から比較的短い期間で大きく進歩しており、そのことについて高く称賛されるべきだ。このプログラムは継続させていかなければならない！

Ⅲ 評価結果集計表

委員		A	B	C	D	E	F	G	H	平均(基準)
基準 1		4	4	4	4	4	4	4	4	4.00
基準 2	観点①	4	4	4	4	4	3	4	4	3.88
	観点②	3	3	3	3	3	3	4	4	3.25
	総合評価	4	4	3	4	3	4	4	4	3.75
基準 3	観点①	4	4	4	4	4	3	4	4	3.88
	観点②	3	4	4	4	3	3	3	4	3.50
	総合評価	4	4	4	4	3	4	3	4	3.75
基準 4	観点①	4	4	4	4	4	4	3	4	3.88
	観点②	4	4	4	4	4	4	4	4	4.00
	観点③	3	4	3	4	4	4	4	4	3.75
	総合評価	4	4	3	4	4	4	3	4	3.75
基準 5	観点①	2	4	3	4	4	2	4	4	3.38
	観点②	4	4	4	4	4	4	4	4	4.00
	観点③	4	4	4	4	4	4	4	4	4.00
	観点④	4	4	4	4	4	3	4	4	3.88
	観点⑤	4	4	4	4	4	3	4	4	3.88
	観点⑥	4	4	4	4	3	3	4	4	3.75
	観点⑦	4	4	4	4	3	3	4	4	3.75
	総合評価	2	4	3	4	3	4	4	4	3.50
基準 6	観点①	4	4	4	4	4	3	4	4	3.88
	観点②	3	4	4	4	3	4	4	3	3.63
	総合評価	3	4	4	4	3	4	4	4	3.75
基準 7	観点①	4	4	4	4	4	3	4	4	3.88
	観点②	4	4	4	4	4	4	4	4	4.00
	観点③	4	4	4	4	3	4	4	4	3.88
	総合評価	4	4	4	4	4	3	4	4	3.88
基準 8		4	4	4	4	4	4	4	4	4.00
基準 9		4	4	4	4	4	3	4	4	3.88
平均(委員)		3.71	3.96	3.79	3.96	3.64	3.50	3.86	3.96	3.80

IV 外部評価で指摘された課題

4 段階の評価の数値的な結果は、4 点満点として計算した結果、全項目平均が、昨年度 3.63 から 3.80 に上昇した。基準別にみた場合、総合評価は、ほぼ 3.7 以上の高評価であり、基準 5 のみ 3.5 であった。観点別にみた場合も、ほぼ昨年度より上昇しており、平均で 19 中 14 観点が 3.7 以上、3 観点が 3.5 以上の高評価を得た。その一方で、基準 2-観点 2、および基準 5-観点 1 に関しては評価が下降し、3.5 を下回る結果となった。そこで、各委員が評価の総括として「主な改善を要する点」に記述した内容、および基準 2 の観点 2、および基準 5 の観点 1 のコメントを参照し、以下に課題を示す。

なお、高得点を得た基準・観点についても個別のコメントを各委員会で吟味し、今年度の運営への示唆を得るものとする。

1 基準 2 「実施体制」、観点 2 「プログラムにおける企画・運営・連携体制が、プログラムの目的を達成するために、適切なものとなっているか。」に関する課題

【評価結果】

基準 2-観点 2 の平均点は、昨年度 3.78 から 3.25 に下降した。

【課題】

観点 2 に関して、各委員から懸念が示されているのは、プログラムの継続性が未だ明らかではない点に対してであり、文部科学省リーディング博士課程プログラムとしての支援が終了した後のあり方について早急に明らかにする必要がある。

2 基準 5 「教育内容及び方法」、観点 1 「教育の目的や授与される学位に照らして、授業科目が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されており、授業科目の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものとなっているか。」

【評価結果】

基準 5-観点 1 の平均点は、昨年度 3.67 から 3.38 に下降した。

【課題】

観点 1 に関しては、各委員からのコメントから、教育の内容に関する課題、方法に関する課題に分けて次に示す。また、インターンシップに関する課題については、両者を分けることが難しいので、別に示す。

① 教育の内容に関する課題

- ・ 共通科目に放射線のリスクに関する内容を含める。
- ・ グローバルに活動を行うために、政治・宗教に関する内容を含める。
- ・ オークリッジ放射線緊急時支援センターにおける訓練のような実践的研修を必修にする。

② 教育の方法に関する課題

- ・ 上級生を「学ぶ」立場から「教える」立場に立たせることで、より深い理解に導く。
- ・ 上級生が現地のボランティアとともにプロジェクトを作り、それを評価・援助するような仕組みを通して意欲を向上させる。
- ・ 復興現場の課題等に関する調査・研究結果を専門誌のみならず、広く一般に公開して復興促進に寄与することで学生の意欲を向上させる。
- ・ 関心・意欲の高い学生を獲得する競争的な入学者選抜など、リーダーを育成するメカニズムを明らかにする。
- ・ 教職員・上級生、外部の専門家を巻き込んで、放射線災害復興の課題解決に貢献する。

③ インターンシップに関する課題

- ・ 緊急・救急機関、報道機関、気象情報機関などへのインターンシップにより、情報の収集・整理・発信方法、組織の構築・機能的な運営方法などを学ぶ。
- ・ 学生の多様性を促進する観点から、社会の多様性を反映したインターンシップとする。

3 総括評価に基づく課題

【評価結果】

総括評価として挙げられた「主な改善を要する点」に基づき課題を示す。

【課題】

- 総括－1 国際的な魅力のあるところに就職できるように支援する。
- 総括－2 国際機関との連携を確立する。
- 総括－3 定常的な学生数を確保する。
- 総括－4 大学の恒常的な大学院教育に組み込むことができるように教育内容を効率化する。
- 総括－5 学生のフィードバックの仕組みを構築しているので、学生から提示された教育内容の課題を外部評価委員等に明示し、改善した点を明らかにすること。
- 総括－6 セミナーやウェブカンファレンスを開催し、医療大学におけるプログラムのアウトリーチを強化すること。

- 総括－ 7 医学生を対象とした掲示板，ニューズレター，その他の通信媒体でこのプログラムを広報すること。
- 総括－ 8 放射線科学に関して確実に訓練を積むこと。

V. 平成 27 年度フェニックスリーダー育成プログラム 外部評価委員会実施要領

1 平成 27 年度外部評価の目的

平成 23 年文部科学省博士課程リーディングプログラムに採択されてから、広島大学大学院放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム（以下「フェニックスリーダー育成プログラム」という。）は、幅広い学際的な知識を基盤として放射線災害に適切に対応し、明確な理念の下で復興を指導できる判断力と行動力を有し、国際的に活躍できるグローバルリーダー（フェニックスリーダー）を育成することを目的として活動してきました。平成 26 年度に日本学術振興会が実施した中間評価において本プログラムは A 評価を獲得し、「計画通りの取り組みであり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することができる」と評価されました。一方で、今後に向けていくつかの留意事項も提示されました。

平成 27 年度の外部評価では、これまで通りの基準による評価とともに、中間評価で指摘された留意点について、各委員の助言を仰ぎプログラムの完成に向けて歩を進めることを目指します。

2 日程表

- (1) 日 時 平成 28 年 2 月 13 日（土）9：00～11：30
(2) 場 所 西条 HAKUWA ホテル、ルージュ
(〒739-0047 広島県東広島市西条下見 6 丁目 5-4 5, TEL082-431-1111)
<http://www.saijo-hakuwahotel.com/access/>



3 外部評価委員会委員（8人）

氏名	所属・職名
柴田 徳思	公益社団法人日本アイソトープ協会・専務理事
長瀧 重信	公益財団法人放射線影響協会・理事長
宮川 清	東京大学大学院医学系研究科・教授
山下 隆	中国経済連合会・会長
Ahmed Meghzifene	Head, Dosimetry and Medical Radiation Physics, Division of Human Health, International Atomic Energy Agency (IAEA)
Albert Lee Wiley	Head, Radiation Emergency Assistance Center/Training Site (REAC/TS)
Jacques Lochard	Vice Chairman, International Commission on Radiological Protection (ICRP) Director, Centre d'étude sur l'évaluation de la protection dans le domaine nucléaire (CEPN)
Tom K. Hei (書面評価)	Professor and Vice-Chairman of Radiation Oncology, Columbia University Medical Center

4 フェニックスリーダー育成プログラム（11人）

職名	氏名	所属	役割分担
副学長	神谷 研二	復興支援・被ばく医療担当 原爆放射線医科学研究所	プログラム責任者 評価委員会, 学位審査委員会, キャリアパス委員会委員長
教授	小林 正夫	医歯薬保健学研究院	プログラムコーディネーター
教授	松浦 伸也	原爆放射線医科学研究所	放射線災害医療コースリーダー 教育委員会委員長
特任教授	静間 清	工学研究院	放射能環境保全コースリーダー
教授	坂田 桐子	総合科学研究科	放射能社会復興コースリーダー
教授	遠藤 暁	工学研究院	入試委員会委員長
特任教授	出口 博則	理学研究科	学生生活委員会委員長
教授	奥田 敏統	総合科学研究科	国際交流委員会委員長
学生代表	Lin Yen Hwa	医歯薬保健学研究科	放射線災害医療コース 先輩メンター
学生代表	辻本 聖也	理学研究科	放射能環境保全コース 先輩メンター
学生代表	山口 文恵	総合科学研究科	放射能社会復興コース 先輩メンター

5 外部評価の進め方

時間	事項	担当
9:00	開会挨拶	プログラム責任者
9:05	外部評価の進め方の説明	プログラム責任者
9:50	平成26年度外部評価委員会以降の本プログラムの取組みに対する説明・質疑応答	コーディネーター
10:00	休憩	
10:10	質疑応答・コメント	出席者
11:00	外部評価委員会のまとめ	プログラム責任者
11:20	閉会挨拶	コーディネーター

【お問い合わせ先Inquiries】

広島大学フェニックスリーダー育成プログラム事務室

Hiroshima University Phoenix Leader Education Program Office

〒739-8524 東広島市鏡山1丁目1番1号 教育学研究科B棟809

1-1-1 Kagamiyama, Higashi-Hiroshima, 739-8524

TEL: 082-424-4689・4638

E-Mail: phoenix-program@office.hiroshima-u.ac.jp

URL: <http://www.hiroshima-u.ac.jp/lp/program/ra/>